

学会記事

I. 運営委員会報告

以下の日程でメール審議を実施した。

1. 広報・情報担当幹事の新設にかかる会則の一部改定について審議したが、原案を修正して再度メールにて審議することとした（審議期間 2014 年 4 月 11 日から 4 月 19 日）。
2. 広報・情報担当委員会の設置について審議し、当委員会の設置が承認された（審議期間 2014 年 4 月 11 日から 4 月 19 日）。
3. 広報・広報担当委員の人事について審議し、松村俊和氏に委員長を委嘱することが承認された（審議期間 2014 年 4 月 11 日から 4 月 19 日）。
4. 広報・情報担当幹事の新設にかかる会則の一部改定について審議し承認された（審議期間 2014 年 4 月 19 日から 4 月 25 日）。
5. 会計事務局の引き継ぎにかかる会則の一部改定について審議し承認された（審議期間 2014 年 4 月 25 日から 5 月 4 日）。
6. 震災復興プロジェクトの特集記事の再印刷について審議し承認された（審議期間 5 月 22 日から 5 月 31 日）。
7. 学会ホームページの管理について審議し、外部に委託していた学会ホームページの管理を広報情報担当委員長が管理することが承認された（審議期間 6 月 7 日から 6 月 16 日）。
8. 学会ホームページの新ドメイン名について審議し承認された（審議期間 8 月 13 日から 8 月 22 日）。
9. 論文賞の新設にかかる表彰規定の一部改定について審議し承認された（審議期間 8 月 13 日から 8 月 22 日）。表彰規定の改定内容は以下の通り。

第 1 条

新) 本規程は植生学会会則第 3 条 3 項に基づき（以下省略）

旧) 本規程は植生学会会則第 3 条 2 項に基づき（以下省略）

(注) ただし、総会で会則の改定が承認された場合には「第 4 条 3 項」とする。

第 2 条

新) 〈省略〉大会において優秀な発表を行った者、学会誌に優れた論文を発表した者に対して賞を授与し、その功績を称えることを目的とする。

旧) 〈省略〉大会において優秀な発表を行った者に対して賞を授与し、その功績を称えることを目的とする。

第 4 条

新) 〈省略〉前条の各表彰を進めるために、表彰委員会を設ける。〈省略〉

旧) 〈省略〉前条の各表彰の予定者を選定するために、表彰委員会を設ける。〈省略〉

第 3 条

新) 〈省略〉

(5) 植生学会研究発表賞

(6) 植生学会論文賞

これ以降はそれぞれ学会賞、奨励賞、功労賞、特別賞、研究発表賞、論文賞とよぶ。

旧) 〈省略〉

(5) 植生学会研究発表賞

これ以降はそれぞれ学会賞、奨励賞、功労賞、特別賞、研究発表賞とよぶ。

第 5 条

新) 〈省略〉研究発表賞の受賞者は、表彰委員長が委嘱した審査員の協議によって決定する。論文賞の受賞候補者については、編集委員会が審議し、受賞予定者を選定する。受賞者は運営委員会の議を経て決定する。

旧) 〈省略〉研究発表賞の受賞者は、表彰委員長が委嘱した審査員の協議によって決定する。

第 11 条 (新設)

〔論文賞〕表彰を行う植生学会大会の前年度に刊行された植生学会誌掲載の原著論文のうち、編集委員会より植生学会論文賞細則に基づいて推薦された特に優れている論文の著者に授与する。

10. CiNii の廃止に伴う植生学会誌の公開先の変更について審議し、J-Stage に移行することが承認された（審議期間 8 月 25 日から 9 月 3 日）。
11. 南蒲生 / 砂浜海岸エコトーンモニタリングネットワークによる事業「エコトーンサイト ネイチャークルージング Part IV —砂浜を学び、砂浜を未来に伝える—」への後援について審議し承認された（審議期間 8 月 28 日から 9 月 6 日）。
12. 平成 26 年度植生学会各賞の候補者の推薦について審議し、受賞者が決定した（審議期間 9 月 13 日から 9 月 28 日）。

2014 年 10 月 18 日に新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」において定例の運営委員会を開催した。審議事項は以下の通り。

1. 2013 年度の収支決算（案）について審議した。
2. 2014 年度の収支予算（案）について審議した。
3. 編集委員会より推薦された今年度の論文賞候補について審議し、受賞論文が決定した。
4. 第 20 回大会（平成 15 年度）の開催地について高知大学（高知市）で開催することとした。
5. 大会の実施体制について審議を行い、大会実行委員会の負担を軽減するために、大会サポートチーム（仮）と庶務幹事（大会開催担当）（仮）を新設することが承認された。
6. 現行の会則・規定・規約類と学会の組織体制について確認を行った。会則・規定・規約類の不備については、今後必要に応じて整備・改定することとした。

II. 編集委員会報告

2014 年 10 月 18 日に新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」において定例の委員会を開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 植生学会論文賞細則を、学会の表彰規定にあうよう一部改

定することとした。

2. 投稿規定・執筆要項・細則のうち、現状に合わない部分の改定について協議し、継続審議とした。
3. 論文審査を迅速に行うため、審査業務マニュアルを一部改定することとした。
4. 植生学会誌の充実に向けて、J-STAGE 移行により可能となるサブリメントデータの電子化について協議し、継続審議とした。

III. 企画委員会報告

2014年10月18日に新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」にて、委員会を開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 植生学会の震災プロジェクトは、活動報告を植生情報誌に掲載し終了したが、学会として震災に関連する取り組みを継続することが望ましいことから、今後は企画委員会で引き継ぐこととした。
2. 将来計画委員会答申をうけ、一般向け書籍の刊行についてワーキンググループで検討することとなった。さらに若手人材育成のための取り組みとして、トレーニングスクールを今年3月に施行的に開催したが、今後も継続することとした。若手の国際学会参加への支援に関しては、他学会の類似の取り組みに関する情報収集を行うこととした。

IV. 表彰委員会報告

2014年10月18日に新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」にて、委員会を開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 平成26年各賞受賞者の報告
委員長より、平成26年度学会賞1名、奨励賞2名の受賞について報告がなされた。
2. 発表賞細則について
発表賞細則について、その改定案が承認された。
3. 第19回大会における発表賞の審査について
19回大会の発表賞の審査方法について確認がなされた。
4. 論文賞の位置づけ

論文賞について表彰規定と編集委員会の論文賞細則に、「表彰委員会の議を経て」を加える方向で改定することが承認された。

5. 各賞の今後の在り方について
功労賞を中心に各賞の今後の在り方について議論した。
6. その他
委員会内で役割分担について議論がなされ、役割分担をすることとなった。

V. 広報・情報担当委員会報告

1. 植生学会ウェブページを笹氣出版印刷のサーバから独自ドメインへ移行する。
2. CiNiiの廃止にともない、植生学会誌の電子ファイルの掲載先をJ-STAGEへ移行する予定であり申請準備中である。

VI. 2014年度総会報告

2014年10月19日に新潟市朱鷺メッセにおいて2014年度総会が開催され、以下の事項が報告または承認された。

- A. 報告事項
 1. 学会事務局
2014年10月1日現在の会員数（正会員568名、団体会員10団体、賛助会員1団体）が報告された。
 2. 各種委員会報告
上記I.~V.の運営委員会、各種委員会の審議事項が報告された。

B. 承認事項

1. 会則の一部改定（別掲1）について承認した。
2. 2013年度収支決算（別掲2）を承認した。
3. 2014年度収支予算（別掲3）を承認した。

C. その他

第20回大会開催地（高知市）の運営代表者として石川慎吾氏より、多数の参加が要請された。

別掲1. 植生学会会則の一部を改定する会則新旧対照表

新	旧
植生学会会則 1995. 8.28 制定 2000.10. 7 改定 2001.10. 6 改定 2007.10. 7 改定 2008.10.12 改定 <u>2014. 5.16 改定</u>	植生学会会則 1995. 8.28 制定 2000.10. 7 改定 2001.10. 6 改定 2007.10. 7 改定 2008.10.12 改定 (新規)
第1章 総 則	第1章 総 則
第1条・第2条 省略	第1条・第2条 省略
第3条 「所在地」本会の事務局を笹氣出版印刷株式会社東京営業所内（東京都港区芝浦2丁目14番13号MCKビル2階）におく。	(新規)
第4条 「事業」本会はその目的を達成するために以下の事業を行う。 省略	第3条 「事業」本会はその目的を達成するために以下の事業を行う。 省略

新	旧
<p style="text-align: center;">第2章 会 員</p> <p>第5条 「会員」本会の会員は正会員、団体会員および賛助会員の3種類とする。 省略</p> <p>第6条 「入会」本会に入会を希望するものは、会長あて、当年度分以上の会費をそえて入会申し込みをしなければならない。</p> <p>第7条 「退会」退会しようとするものは、会長あて、退会届を出さなければならない。ただし、すでに納めた会費は払いもどさない。なお、2年以上会費を滞納したものは、退会したものと自動的に認定する。</p> <p>第8条 「権利」会員は次の権利をもつ。 省略</p> <p>第9条 「義務」会員は次の義務を負う。本会の会則を守ること。会の運営を妨げ、あるいは会の名誉を著しく毀損したと認められる場合は、運営委員会の決議により退会させ、または除名することがある。</p>	<p style="text-align: center;">第2章 会 員</p> <p>第4条 「会員」本会の会員は正会員、団体会員および賛助会員の3種類とする。 省略</p> <p>第5条 「入会」本会に入会を希望するものは、会長あて、当年度分以上の会費をそえて入会申し込みをしなければならない。</p> <p>第6条 「退会」退会しようとするものは、会長あて、退会届を出さなければならない。ただし、すでに納めた会費は払いもどさない。なお、2年以上会費を滞納したものは、退会したものと自動的に認定する。</p> <p>第7条 「権利」会員は次の権利をもつ。 省略</p> <p>第8条 「義務」会員は次の義務を負う。本会の会則を守ること。会の運営を妨げ、あるいは会の名誉を著しく毀損したと認められる場合は、運営委員会の決議により退会させ、または除名することがある。</p>
<p style="text-align: center;">第3章 役 員</p> <p>第10条 本会に次の役員をおく。 会長1名、運営委員若干名、幹事長1名、幹事(庶務、会計、編集)若干名、会計監事2名、編集委員長1名、編集委員若干名、専門委員会委員長各1名、専門委員若干名</p> <p>第11条 役員の選任方法ならびに任期は次のとおりとする。 省略</p>	<p style="text-align: center;">第3章 役 員</p> <p>第9条 本会に次の役員をおく。 会長1名、運営委員若干名、幹事長1名、幹事4名(庶務1名、会計1名、編集2名)、会計監事2名、編集委員長1名、編集委員若干名、専門委員会委員長各1名、専門委員若干名</p> <p>第10条 役員の選任方法ならびに任期は次のとおりとする。 省略</p>
<p style="text-align: center;">第4章 機 関</p> <p>第12条 「総会」総会は定期的に会長が召集して開き、会の運営について審議する。</p> <p>第13条 「運営委員会」運営委員会は会長と運営委員をもって構成し、会長が議長となる。運営委員会は会の運営方針について審議する。</p> <p>第14条 「編集委員会」編集委員会は編集委員長と編集委員で構成し、会誌の編集、刊行に関する事項を審議する。</p> <p>第15条 専門委員会は委員長と専門委員により構成し、当該専門事項に関する会務を行う。</p> <p>第16条 「<u>学会事務局</u>」事務局は幹事長と幹事および会長が必要と認める事務局員をもって構成し、会長を補佐して会を運営する。(削除)</p> <p>(削除)</p>	<p style="text-align: center;">第4章 機 関</p> <p>第11条 「総会」総会は定期的に会長が召集して開き、会の運営について審議する。</p> <p>第12条 「運営委員会」運営委員会は会長と運営委員をもって構成し、会長が議長となる。運営委員会は会の運営方針について審議する。</p> <p>第13条 「編集委員会」編集委員会は編集委員長と編集委員で構成し、会誌の編集、刊行に関する事項を審議する。</p> <p>第14条 専門委員会は委員長と専門委員により構成し、当該専門事項に関する会務を行う。</p> <p>第15条 「事務局」事務局は幹事長および幹事をもって構成し、会長を補佐して会を運営する。事務局は幹事長または庶務幹事の所属する機関におく。</p> <p>第16条 「<u>編集事務局</u>」編集事務局は編集委員長および編集幹事をもって構成し、会誌の編集、刊行に関する会務を行う。</p>
<p style="text-align: center;">第5章 会 計</p> <p>第17条・第18条・第19条 省略</p>	<p style="text-align: center;">第5章 会 計</p> <p>第17条・第18条・第19条 省略</p>
<p style="text-align: center;">第6章 雑 則</p> <p>第20条 第3条以外の会則の変更は総会の決議による。</p> <p>第21条 第3条の変更は運営委員会の決議による。</p>	<p style="text-align: center;">第6章 雑 則</p> <p>第20条 会則の変更は総会の決議による。 (新規)</p>
<p style="text-align: center;">「付 則」</p> <p>第1条・第2条 省略</p> <p>第3条 設立年月日 1996年4月1日</p>	<p style="text-align: center;">「付 則」</p> <p>第1条・第2条 省略 (新規)</p>

別掲2. 植生学会 2013 年度収支決算

(単位: 円)

収入の部		予 算	決 算	差 異	備 考
前期の繰り越し		4,706,183	4,706,183	0	
会費		3,280,000	2,892,006	387,994	
バックナンバー売り上げ		20,000	10,000	10,000	
雑収入		500,000	498,846	1,154	
			(24,896)		内訳1: 著作権使用料など
			(473,950)		内訳2: 植生学会誌別刷・超過ページなど
利息		500	397	103	
計		8,506,683	8,107,432	399,251	
支出の部		予 算	決 算	差 異	備 考
植生学会誌刊行費	900,000 円 × 2 回	1,800,000	1,820,565*	-20,565	*第30巻1号・2号
植生情報刊行費	650,000 円 × 1 回	650,000	378,000*	272,000	*第17号
学会事務局経費		900,000	988,894*	-88,894	*選挙関連経費
			(224,983)		内訳: 学会事務局事務の委託費
編集事務局経費		100,000	8,351	91,649	
植生情報編集費		40,000	45,500	-5,500	
企画委員会経費		600,000	365,658*	234,342	*第9回シンポジウム
表彰委員会経費		50,000	39,440	10,560	
将来計画委員会経費		150,000	53,464	96,536	
大会補助費		350,000	350,000*	0	*第18回大会
震災復興プロジェクト経費		350,000	68,330	281,670	
群集データベース作業グループ経費		150,000	0	150,000	
予備費		3,366,683	115,710	3,250,973	*植生学会誌別刷・超過ページ
計		8,506,683	4,233,912	4,272,771	
収支差額(繰り越し)		0	3,873,520	-3,873,520	

別掲3. 植生学会 2014 年度収支予算

(単位: 円)

収入の部		2014 年度	2013 年度	差 異	備 考
前期繰り越し		3,873,520	4,706,183	-832,663	
会費		3,354,000*	3,280,000	74,000	*一般486, 学生82, 団体10, 賛助1
バックナンバー売り上げ		20,000	20,000	0	
雑収入		500,000	500,000	0	
利息		500	500	0	
計		7,748,020	8,506,683	-758,663	
支出の部		2014 年度	2013 年度	差 異	備 考
植生学会誌刊行費	900,000 円 × 2 回	1,800,000*	1,800,000	0	*第31巻1号・2号
植生情報刊行費	650,000 円 × 1 回	650,000*	650,000	0	*第18号
学会事務局経費		930,000*	900,000	30,000	*選挙関連経費: -200,000 円, 委託費: +100,000 円, 広報・情報: +30,000 円
編集事務経費		140,000*	100,000	40,000	*植生情報編集事務経費: 40,000 円を含む
植生情報編集事務経費*		—	40,000	-40,000	*編集事務経費にまとめた
企画委員会経費		400,000*	600,000	-200,000	*シンポジウム: -600,000 円, 震災復興: +180,000 円, シカ: +60,000 円
表彰委員会経費		50,000	50,000	0	
大会補助費		350,000*	350,000	0	*第19回大会
震災復興プロジェクト経費*		—	350,000	-350,000	*企画委員会経費に組み入れ
将来計画委員会経費*		—	150,000	-150,000	*終了(答申提出)
群集データベース作業グループ経費*		—	150,000	-150,000	
予備費		3,428,020	3,366,683	61,337	
計		7,748,020	8,506,683	-758,663	

VII. 学会賞

2014年度の学会各賞の受賞者は以下の通り。授与式は2014年10月19日に新潟市朱鷺メッセで行われ、石川会長より各受賞者に表彰状と記念品が贈呈された。

学会賞 富士田裕子（北海道大学・北方生物圏フィールド科学センター植物園）

奨励賞 加藤ゆき恵（釧路市立博物館）
黒田有寿茂（兵庫県立大学 自然・環境科学研究所（兵庫県立人と自然の博物館併任））

論文賞 吉川正人・泉 団・星野義延（東京農工大・院・農）
冬季に火入れ管理される栃木県箒川の河辺草原植生の組成的特徴（植生学会誌 第30巻 第1号掲載 1-15頁 2013年6月発行）

植生学会研究発表賞

口頭発表賞 富樫晃一（北海道大・院・農）・富士田裕子（北海道大学北方生物圏 フィールド科学センター植物園）国指定天然記念物「女満別湿生植物群落」における地下水位の変動

ポスター発表賞 菊池輝海（筑波大学生命環境科学科）・上條隆志（筑波大学生命環境系）・小川泰浩（森林総合研究所）・岡部宏秋・石森良房（株式会社伊豆緑産）火山性荒廃地における東京クレセントロール工法の治山緑化機能の評価

VIII. 植生学会第19回大会報告

植生学会第19回大会（大会会長：崎尾 均，実行委員長：中田 誠）が、2014年10月17日～21日にかけて新潟市朱鷺メッセと新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」において開催された（下記日程）。一般講演では口頭27題，ポスター28題の発表が行われた。参加者は予約申込者104名，当日参加者24名の計128名であった。

- 10月17日～18日 現地研究会①佐渡島の新潟大学演習林スギ天然林ほか
- 10月18日 各種委員会，運営委員会
- 10月19日 一般講演（口頭発表，ポスター発表），学会賞授与式，総会，学会賞受賞者講演 現地研究会説明会，懇親会
- 10月20日～21日 現地研究会②佐渡島の新潟大学演習林スギ天然林ほか

一般講演は以下の通りであった。

〈口頭発表〉

- A01 衛星リモートセンシングデータを用いた広域スケール植生図化学法の開発（予報）。原慶太郎・原田一平・富田瑞樹・朴鐘杰・浅沼市男（東京情報大学）・原正利（千葉県立中央博物館）・平吹喜彦（東北学院大学）・藤原道郎（兵庫県立大学大学院）
- A02 シダ植物の標高に沿った種多様性のメタ解析。田中崇行・佐藤利幸（信州大学）
- A03 伊豆諸島御蔵島の自然植生の垂直分布と土壌の断面形

態。森優美・田村憲司・上條隆志（筑波大学生命環境科学研究所）

- A04 伊豆半島東海岸の海岸植物群落。田中徳久（神奈川県立生命の星・地球博物館）
- A05 東日本山地溪畔林の植生地理学的研究。深町篤子・星野義延（東京農工大学）
- A06 伊豆天城山におけるヒメシヤラとヒコサンヒメシヤラの同所的共存機構。大淵香菜子・武生雅明・中村幸人（東京農業大学）
- A07 ブナ林の発達が悪い本州中部内陸地域における冷温帯夏緑広葉樹林の種組成と分布。設楽拓人・中村幸人・武生雅明（東京農大・院・農）
- A08 マツ枯れ後，天然下種により発生したアカマツ実生。大西史豊・養父志乃夫（和歌山大学大学院システム工学研究科）
- A09 武蔵野台地の長期未利用地に成立した落葉広葉樹林の特徴。吉川正人（東京農工大・院・農）・中村徹（筑波大）
- A10 韓国マウルの二次林に関する研究。李昇京・吉川正人（東京農工大・院・農）・尹鐘学（国立生物資源館）
- A11 南米ポリビアアルティプラーノの土地利用と生態地理景観。沖津進（千葉大学大学院園芸学研究科）
- A12 モンゴルの森林-草原境界部における群落組成の変化パターン。川田清和・大橋春香・Hao LI・Sumya OYUN-SUVD・Jamsran UNDARMAA・上條隆志・田村憲司（筑波大・生命環境系）
- A13 東アフリカと東南アジアの山地林の植生比較。目黒伸一（国際生態学センター）
- B01 大分川河川敷ヤナギ林の動態20年間のまとめ。桑原佳子・足立高行（応用生態技術研究所）
- B02 国指定天然記念物小堤西池のカキツバタ群落30年間の動態—永久枠の観察—。中西正（豊丘高校）・浜島繁隆（元愛知県環境審議会専門調査員）・川角法子（愛知県）・大川徹（神戸女学院中高部）
- B03 国指定天然記念物「女満別湿生植物群落」における地下水位の変動。富樫晃一（北海道大・院・農）・富士田裕子（北海道大学北方生物圏 フィールド科学センター植物園）
- B04 静狩湿原における池塘植生の変遷と排水路の関係。イアヨン（北海道大学大学院農学院）・富士田裕子（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園）
- B05 釧路湿原周縁にみられる湧水辺植生。佐藤雅俊（帯畜大）
- B06 静岡県浮島ヶ原における絶滅危惧植物サワトランオの生育環境と生育の状況。下田路子・芹澤卯享・前澤瑞城・永田舞・加須屋真（常葉大学社会環境）・伊東巧（富士市みどりの課）
- B07 さいたま市荒川河川敷のハンノキを中心とした河畔林における春植物の分布解析。若山正隆・古橋光弘・佐藤正人・山口綾子・中村純子（浦和自然観察会）・大澤元（自然観察指導員埼玉）・横尾 柁子・西ノ原章浩（浦和自然観察会）・高橋勝緒・高橋絹世（和光・緑と湧き水の会）・太田和夫（元埼玉県立自然史博物館）
- B08 湖沼周辺の水路における水生植物群落の保全について。片桐浩司・大寄真弓・萱場祐一（独立行政法人土木研究所）

- B09 住宅団地が都市における草原生植物の保全に果たす役割. 上村晋平 (兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科)
- B10 春日山照葉樹林におけるシカ柵内の植生変化と林冠条件. 前迫ゆり (大阪産大・院・人間環境)
- B11 ニホンジカの食害が樹木の枯死率と森林の動態に及ぼす影響. 比嘉基紀 (高知大・理)・川西基博 (鹿児島大・教育)・久保満佐子 (鳥根大・生物資源)・大橋春香 (森林総研)・崎尾均 (新潟大・農)
- B12 東日本大震災被災地の海岸自然林について. 村上雄秀・目黒伸一・林寿則・矢ヶ崎朋樹 (IGES 国際生態学セ)・佐々木寧 (埼玉大名誉)・島田直明 (岩手県立大)・鈴木康平 (筑波大)
- B13 仙台湾 / 砂浜海岸エコトーンで進む海岸林復興活動に対する生態学的疑問. 平吹喜彦 (東北学院大学・地域構想)・富田瑞樹・原慶太郎 (東京情報大学・総合情報)
- B14 高知県四万十川における自然再生事業「アユの瀬づくり」と菜の花祭りの共存を考える. 古野佑果・比嘉基紀・石川慎吾 (高知大・理)
- <ポスター発表>
- P01 長野県上高地梓川氾濫原における林床植生の植生と分布. 若松伸彦・柏倉美沙・武生雅明・中村幸人 (東京農大・地域環境)
- P02 北アルプス雲ノ平における高山植生の分布と攪乱との応答. 高瀬藍 (東京農大・森林生態)
- P03 浮島湿原の植物相及び植生の現状把握. 船本麻奈未 (北海道大学農学院)・富士田裕子 (北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園)
- P04 新潟県における海岸の希少植物バシクルモンの分布・個体群構造と植生の関係. 指村奈穂子 (神奈川県自然環境保全センター)・大谷雅人・古本良 (森林総研・林木育種センター)・横川昌史 (大阪市立自然史博物館)・澤田佳宏 (兵庫県立淡路景観園芸学校)
- P05 変化の著しい隣接群落境界に関する研究. 藤原道郎 (兵庫県立大・院・緑環境景観マネジメント / 淡路景観園芸)・伊藤休一 (緑生研)
- P06 希少樹種クロボウモドキ (バンレイシ科) の生育立地と植生. 澤田佳宏 (兵庫県立大・緑環境景観マネジメント研究科)・指村奈穂子 (神奈川県自然環境保全センター)・池田明彦・大谷雅人 (森林総研・林木育種センター)・須貝杏子・内貴章世 (琉球大・熱帯生物圏研究センター)・中山博子 (神奈川県自然環境保全センター)・古本良 (森林総研・林木育種センター)・横川昌史 (大阪市立自然史博物館)
- P07 湧水湿地における微生物立地の多様性が植生構造に及ぼす影響. 渡邊己治子・肥後陸輝 (岐阜大・地域科学)
- P08 新潟大学佐渡演習林に自生するモウセンゴケの個体群維持要因. 須貝凌 (新潟大・院・自然科学)・中田誠 (新潟大・農)
- P09 ミツデウラボシの葉形態と孢子囊群形成率の関係. 水野大樹 (千葉大・院・園芸)
- P10 香川県有明浜における絶滅危惧種ハマウツボが寄生したカワラヨモギの生育特性. 戎谷遵・岡浩平 (広工大・院・環境)
- P11 東京都府中市における希少植物の保全に重要な地域の環境特性. 村上知帆・星野義延・吉川正人・崎尾萌 (東京農工大学)
- P12 岩手県の砂浜ごとの種組成の相違は何によってもたらされているか?. 島田直明 (岩手県立大)・川西基博 (鹿児島大)・早坂大亮 (近畿大)
- P13 伊豆諸島大島および三宅島の噴火後の植生. 久保田七海・染矢貴・浅井樹・篠原光礎 (アジア航測株式会社)
- P14 火山性荒廃地における東京クレセントロール工法の治山緑化機能の評価. 菊池輝海 (筑波大学生命環境科学科)・上條隆志 (筑波大学生命環境系)・小川泰浩 (森林総合研究所)・岡部宏秋・石森良房 (株式会社伊豆緑産)
- P15 霧島山系における約 30 年間の植生変化 (予報). 山川博美・安部哲人・野宮治人 (森林総研九州)・南谷忠志 (宮崎植物研究会)
- P16 多雪地・天然林の斜面地形上におけるスギの種子散布と実生の消長. 寄元道徳・藤井弘明・細見純嗣・柳本順・伊藤雅敏・太田健一・浅野善和・大橋健太・岡部芳彦 (京都大・フィールド科学教育研究センター)
- P17 放棄された落葉広葉樹二次林の成立過程. 臼田麻純 (岡山大・院・環境)
- P18 佐渡棚田跡地の埋土種子の組成と棚田ビオトープの植生の比較. 藤彦祐貴 (新潟大・院・自然科学)・中田誠 (新潟大・農)
- P19 ミクロネシア連邦ピングラップ島における居住地域の植生景観と有用植物の多様性. 川西基博 (鹿児島大・教育)・山本宗立 (鹿児島大・島嶼研)・西村知 (鹿児島大・法文)
- P20 住宅地域における路傍雑草の出現とガーデニングの関係. 西尾孝佳・栗原由依加 (宇都宮大・雑草と里山の科学教育研究センター)
- P21 富士山南麓におけるスズタケの衰退に伴う林床植生. 佐藤佑樹 (東京農工大学農学府自然環境保全学専攻)
- P22 東中国山地のいくつかの希少植物へのシカの影響. 永松大 (鳥取大・地域)
- P23 東日本大震災の津波による植生への影響. 寺澤弘陽・磯田真紀・染矢貴・巻岐信二・市橋理・塚本吉雄 (アジア航測株式会社)・佐藤直人・木村元・阿部慎太郎・中山隆治 (環境省自然環境局生物多様性センター)
- P24 津波後に残存した森林の分布と木本種組成. 富田瑞樹 (東京情報大学)・菅野洋 (東北緑化環境保全株式会社)・平吹喜彦 (東北学院大学)・原慶太郎 (東京情報大学)
- P25 福島県中通り地域における景観構造の把握と山菜種の分布予測. 木村絵里・星野義延・大橋春香 (東京農工大学)
- P26 津波被害を受けた市街地跡に成立した湿地植生. 星野義延 (東京農工大学大学院)・星野順子 (東京環境工科専門学校)・深町篤子 (東京農工大学大学院)
- P27 三陸海岸最北部の海崖植生の津波から 4 年目の状況. 小山千穂・鮎川恵理 (八戸工業大学)
- P28 岩手県沿岸の植生 - 大津波の影響による変化 (4). 竹原明秀・高橋和那・千葉麻里奈・佐々木裕子 (岩手大・人社)・大上幹彦